

## 始動した21世紀において学会に求められる役割

東京農業大学・副学長  
養茂 寿太郎

### ①学会の創設から現在まで ～学会のDNAとは何か?～

「同じ分野の学術(専門の学問(基礎から積み重ねられた、体系的な専門知識))上の研究団体」が学会とされている。

日本学術会議編「学会名鑑・2001～03版」によると、明治5(1872)年アジア協会を最古に、大正初期までは1学会/年、昭和25年以降、平均して30～40学会/年、大学紛争時(昭和41年～46年)を例外としてこの傾向が続き、バブル崩壊で激減。現在、1624の学会がある。

フィードバックに弱い、自己点検・評価に乏しい、相互承認型。

### ②日本レジャー・レクリエーション学会 の場合

昭和39年(1964)年レクリエーション研究懇談会

昭和40年(1965)年日本レクリエーション研究会

昭和46年(1971)年日本レクリエーション学会設立

昭和62年(1987)年「レクリエーション学の方法」を編集発行

「レクリエーション学」は、いまだ十分に体系化されていない。21世紀のキーワードはレクリエーションである

1988年の大会シンポジウムテーマは、「レクリエーション研究の今日的課題」

平成3(1991)年レジャー・レクリエーション学会に改称

1995年「日本レジャー・レクリエーション学会の歩み1964-1995」刊行

### ③「ビジョンと改革」or「改革とビジョン」?

- ・ビジョンを実施するための改革  
トップダウン的改革  
ガバナンスの問題
- ・改革を実行するためのビジョン  
ボトムアップ的ビジョン  
共有化の努力

### ④ビジョン策定のポイント

- ・時代にあったニーズの認識  
現状認識と将来予測  
過去・現在・未来、振り返れば未来
- ・自らの組織のシーズの発掘  
人的シーズと物的シーズ  
流動的ひと・不安定なもの  
人材と財産

### ⑤改革の戦略

- ・改革は常に二重性格的宿命をもつ  
改革にひたすら抵抗して生命力を失うか、  
安易に迎合して本質をなくすか。
- ・改革に伴うシナジー効果を狙う  
一つの改革がいくつかの問題を解決する。  
一つの改革が複数の効果を生む。

### ⑥学会ビジョンと学会改革の基本

- ・変化への対応  
取り巻く変化とは何か  
対応とは何か
- ・将来展望の持続的共有  
個性ある学会の個性ある活動

### ⑦情報化社会の学会改革

(例えば情報化社会への変化)

季刊誌、月刊誌の情報から、デイリー、タイムリー情報へ  
会員への情報配信から学会情報の外部発信  
日本語による日本の学会情報、国際語による日本発信の学問へ  
(紙媒体の雑誌からインターネットの情報に変わるのか)

### ⑧自己実現社会の学会改革

(例えば、人間の価値意識の変化)

- ・所属意識社会や尊厳社会を超えた日本社会(大学研究者、大学院生、公務員研究者、民間研究者など)
- ・教育・研究社会に埋没する学会から、社会貢献人材育成社会の学会へ  
人材養成期間(大学等)と連動した人材育成の学会  
CPD社会における学会の役割

### ⑨分化から総合化に向かう学問

(例えば、学問の変化)

- ・学問は次第に分化してきたが、再び総合化に向かってきている
- ・学際的研究、境界領域分野
- ・先端的研究、前線的研究、教育的研究
- ・前線的研究・実学研究の意識

### ⑩学会の将来はみんなで設計するもの

(学会は誰かが運営して都合よく使うものではない)

- ・私はこう構想する
- ・あなたはこう計画する
- ・あなたたちはどう設計する  
基本構想を描き、基本計画を持ち、[全ての会員]  
基本設計に移し、実施設計を確立し、[評議員会]  
設計監理を怠らない。[理事会]